エコアクション21

エコアクション21
認証番号0008547

環境経営レポート

【2023年度版】

中山産業株式会社

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

2024年5月22日発行

目次

	頁
1．組織の概要	2 ～ 4
2．環境方針	5
3．環境への負荷	6 ～ 7
4．環境目標と実績	8 ～ 10
5．主要な環境活動計画内容	11
6．環境活動の取組結果と評価	12～14
7．環境関連法規等の遵守及び訴訟の有無	15～16
8．次年度の活動目標	17～19
9．次年度の主要な環境活動計画内容	20
10．代表者による全体評価と見直しの結果	21

1.　組織の概要

（1）　名称及び代表者名

事業所名：中山産業株式会社

代表者　：代表取締役　中山　倫太郎

（2）　所在地

本社・門司事業所　　：福岡県北九州市門司区松原1丁目9番6号

真岡事業所・製函課　：栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1丁目2番2号

加工品課　：栃木県真岡市鬼怒ケ丘18番地5号

（3）　環境管理責任者氏名及び担当者

【門司事業所】

推進責任者　　：生田　勇人

【真岡事業所】

環境管理責任者　：古川　隆夫

推進責任者　　：加工品製造部　広瀬　寿明

推進委員　　：製函課　　菊地　英二

：加工品課　町井　大祐

【事務局】

推進事務局　　：上野　健（門司事業所環境管理責任者兼務）

連絡先　　ＴＥＬ　：0285-82-5577　　ＦＡＸ　：0285-83-2492

（4）　事業の規模　　（2023年4月～2024年3月）

活動規模	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課
従業員*1	7名	21名	28名*2
延べ床面積	1,191㎡	3843㎡	1,741㎡
2023年度売上高	52百万円	354百万円	286百万円

*1：3月末現在　*2：2019年度より総務部門を加工品課に含める

（5）　認証登録範囲

関連事業所　：本社・門司事業所

：真岡事業所　製函課

：真岡事業所　加工品課・総務課

対象外　　：神鋼事業所　　※ＩＳＯ14001活動構成員のため対象外

（6）　事業の内容

●梱包輸送用木製パレット、木枠の製作・販売

●輸出梱包輸送用（蒸熱乾燥処理）木製パレット、木箱の製作・販売

●梱包輸送用スチールパレットの製作・販売

●精密板金加工・溶接加工

（7）　主な製品紹介

木製パレット

木製パレット

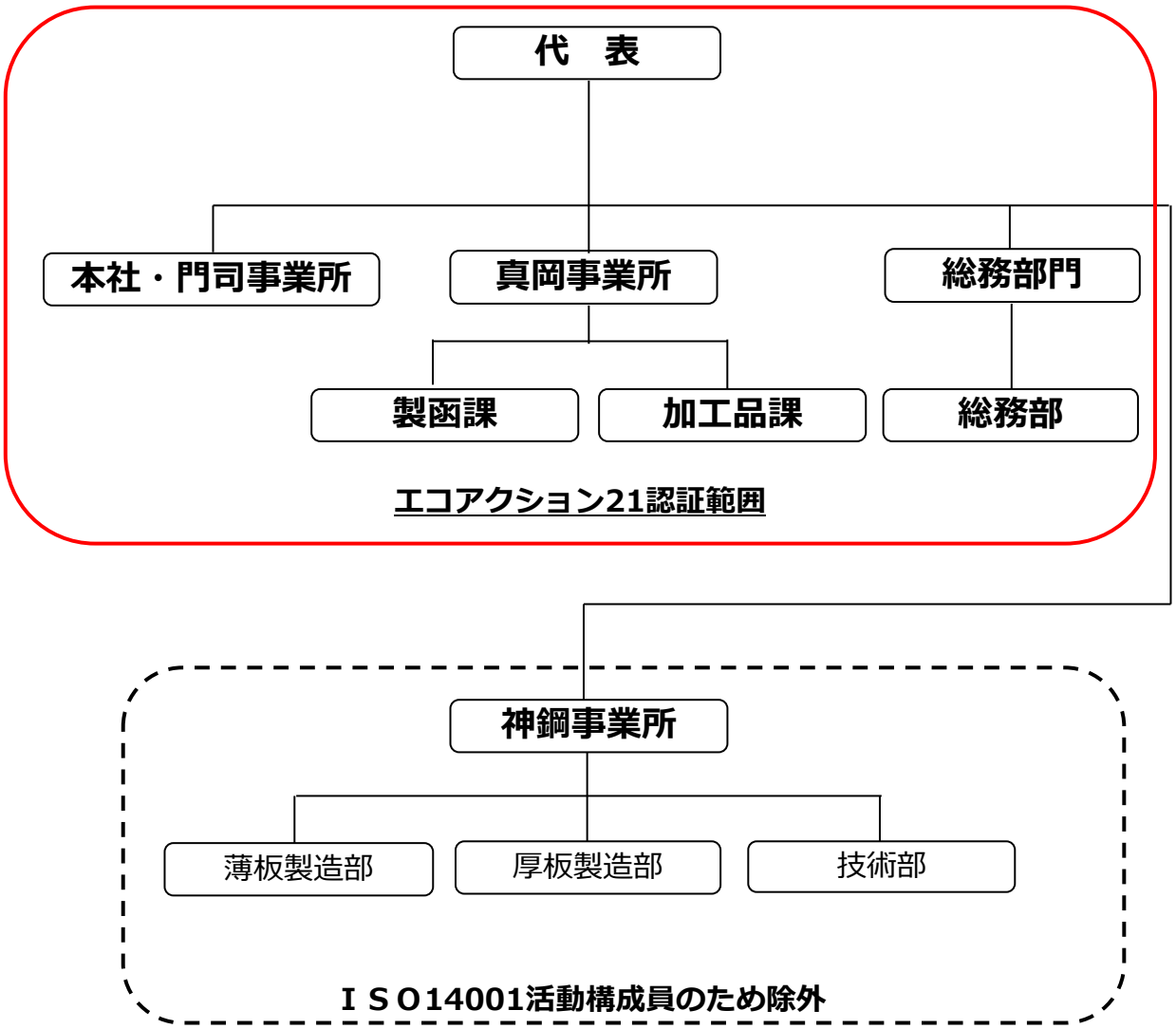
特殊長尺木箱

建造用梁

鉄製BOX

鉄製パレット

（8）　組織図


代　表
本社・門司事業所
真岡事業所
総務部門
製函課
加工品課
総務部
エコアクション21認証範囲
神鋼事業所
薄板製造部
厚板製造部
技術部
ＩＳＯ14001活動構成員のため除外

2.　環境方針

環境方針

私達は、地球規模での環境問題が深刻化している現状をしっかりと認識し、
木材パレット及び鉄製パレットの「製造・開発・輸送」活動を通じて、
事業活動における環境負荷の低減や、社会に貢献する製品を目指します。
このために、以下の活動を全社一丸となり、自主的・積極的に推進する。

1. 環境関連法規則及び条例を遵守します。
2. 製造工程から発生する木材･鉄の廃棄物の削減に取り組みます。
3. トラック･フォークリフト等で使用する化石燃料の削減に取り組みます。
4. 電力消費量の削減を通じて二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
5. 節水を徹底して行います。
6. 環境経営の継続的な改善として5S活動を推進します。
7. 環境目標を設定し継続的な改善を推進すると共に定期的な見直しを行います。
8. 教育及び訓練を実施し、環境に対する意識と資質の向上を図ります。
9. この方針はサイト内で働く全ての人に周知すると共に一般にも公開します。

エコアクション21
認証番号0008547

２０２３年４月１日　中山産業株式会社

代表取締役　中山　倫太郎

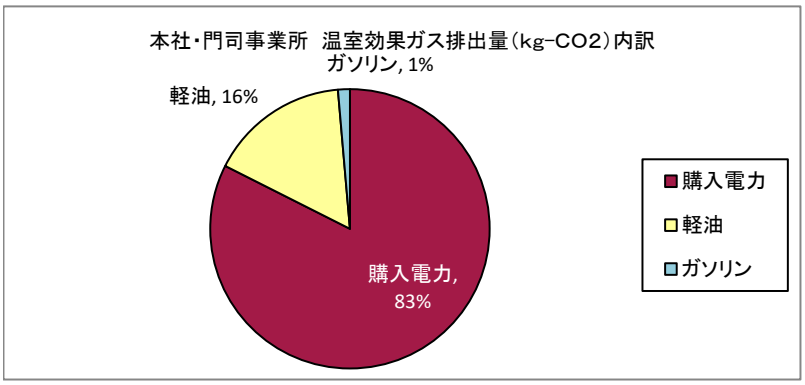
3.　環境への負荷　　（2022年を基準年とし3年間活動）

（1）本社・門司事業所

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
①　温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2*	19,736	16,875		
②　廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	15	23		
	産業廃棄物	kg	32,250	29,190		
③　総排水量	上水	㎥	140	119		

*平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.463を使用



温室効果ガス排出量内訳

2023年度	
項　目	パーセンテージ
購入電力	82%
軽油	16%
ガソリン	1%

※灯油・ガスは除外

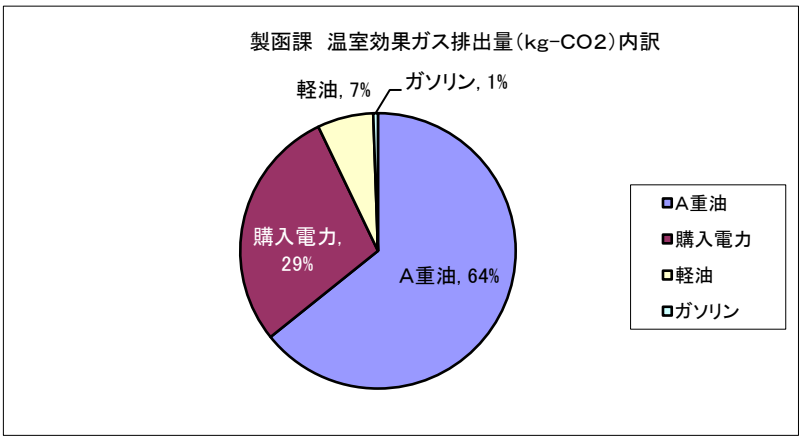
（2）真岡事業所　製函課

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
①　温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2*	177,166	173,400		
②　廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	0	0		
*1	産業廃棄物	kg	3,203	2,880		
③　総排水量	地下水+上水	㎥	512	524		

* 平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.462を使用

*1 木材リサイクル資源化廃棄物は除く



温室効果ガス排出量内訳

2023年度	
項　目	パーセンテージ
A重油	64%
購入電力	29%
軽油	7%
ガソリン	1%

※ガスは除外

（3）真岡事業所　加工品課・総務課

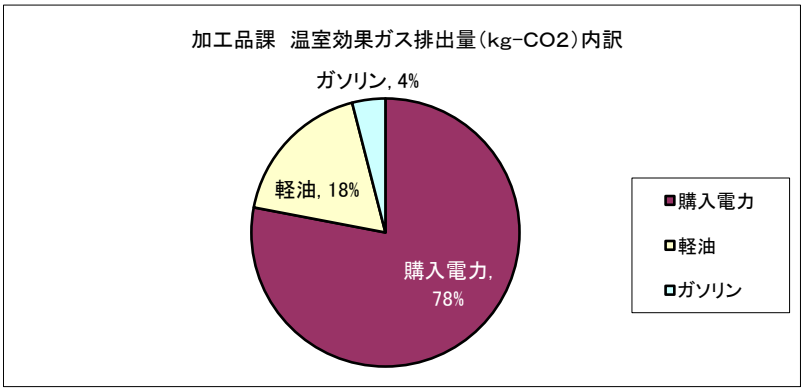
基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
①　温室効果ガス排出量*1	二酸化炭素	kg-CO2*	51,036	51,598		
②　廃棄物処理量*1	一般廃棄物	kg	0	0		
*2	産業廃棄物	kg	2,320	1,540		
③　総排水量	地下水	㎥	573	457		

*平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.462を使用

*1：2019年度より総務課のガソリン温室効果ガス排出量、産業廃棄物を加工品課に含める。

*2 有価物処理廃棄物は除く



温室効果ガス排出量内訳

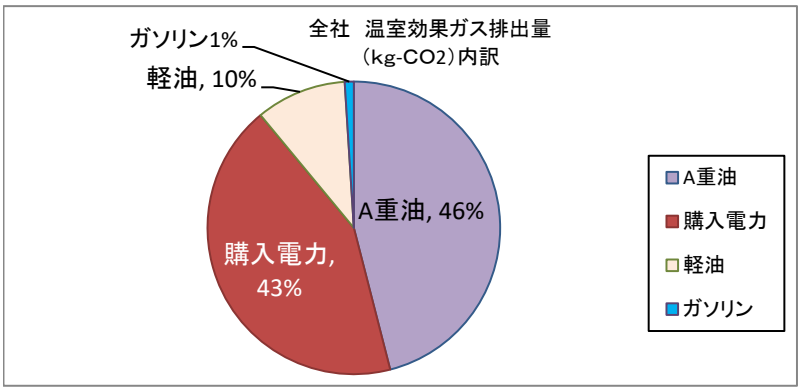
2023年度	
項　目	パーセンテージ
購入電力	78%
軽油	18%
ガソリン	4%

※灯油・ガスは除外

（4）全体

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
①　温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2	247,938	241,873		
②　廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	15	23		
	産業廃棄物	kg	37,773	33,610		
③　総排水量	地下水+上水	㎥	1,225	1,100		



温室効果ガス排出量内訳

2023年度	
項　目	パーセンテージ
A重油	46%
購入電力	43%
軽油	10%
ガソリン	1%

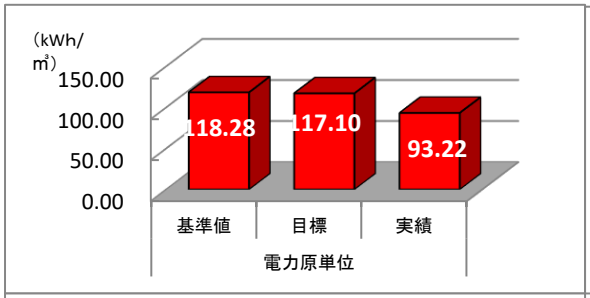
※灯油・ガスは除外

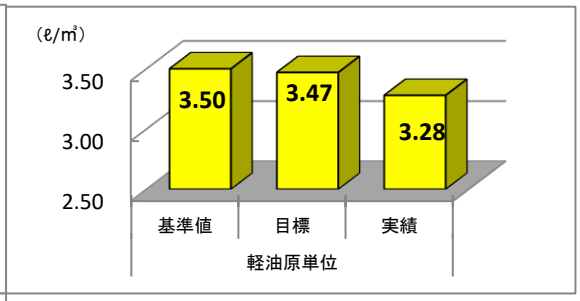
4-1.　環境目標と実績　本社・門司事業所

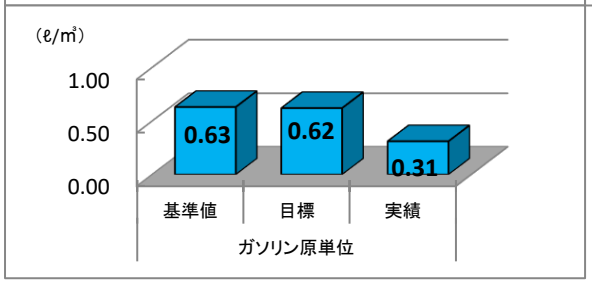
項目	2022年度		2023年度			
	基準年		目標		実績	評　価
二酸化炭素削減項目	（2022年4月～2023年3月）		（2023年4月～2024年3月）		（2023年4月～2024年3月）	（原単位）
電気使用量（kWh）		35,840	基準値-1%	35,482	30,110	○
二酸化炭素（kg-CO2）	排出係数0.463	16,594		16,428	13,911	
原単位（kWh/㎥）*1		118.28		117.10	93.22	
軽油使用量　（ℓ）		1,060	基準値-1%	1,049	1,059	○
二酸化炭素（kg-CO2）	排出係数2.58	2,735		2,708	2,732	
原単位（ℓ/㎥）		3.50		3.47	3.28	
ガソリン使用量（ℓ）		191	基準値-1%	189	191	○
二酸化炭素（kg-CO2）	排出係数2.32	443		439	443	
原単位（ℓ/㎥）		0.63		0.62	0.63	
産業廃棄物削減項目						
一般廃棄物（kg）		15	基準値-1%	15	23	×
原単位（kg/㎥）		0.05		0.05	0.07	
木材（kg）		32,250	基準値-1%	31,928	29,190	○
原単位（kg/㎥）		106.44		105.38	90.37	
排水量の削減						
節水（㎥）		140	基準値-1%	139	119	○
原単位（㎥/㎥）		0.46		0.46	0.37	
化学物質の削減	対象なし					-

*1　分母「㎥」：木箱生産量

二酸化炭素削減原単位グラフ　（2023年度）







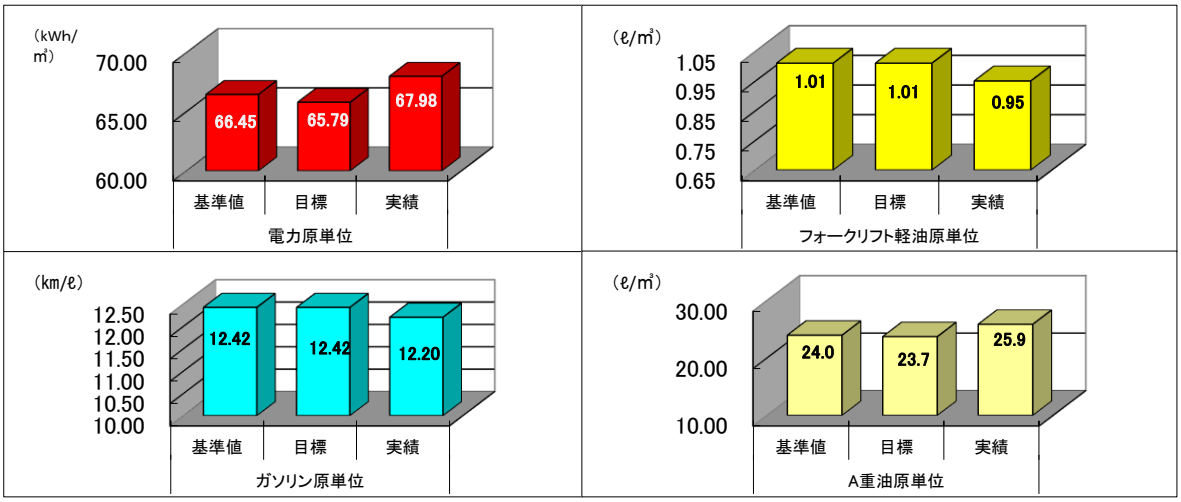
※化学物質の削減については、
　取扱いなしのため対象外
※グリーン購入・調達は、事務用品で実施

4-2. 環境目標と実績　製函課

項目	2022年度		2023年度			
	基準年		目標		実績	評　価
二酸化炭素削減項目	（2022年4月～2023年3月）		（2023年4月～2024年3月）		（2023年4月～2024年3月）	（原単位）
電気使用量（kWh）		112,495	基準値-1%	111,370	107,475	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数0.462	51,973		51,453	49,653	
原単位（kWh/㎥）*1		66.45		65.79	67.98	
トラック軽油使用量　（ℓ）		1,165	基準値0%	1,165	937	○
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.58	3,006		3,006	2,417	
原単位（km/ℓ）		7.76		7.76	8.34	
フォーク軽油使用量　（ℓ）		3,947	基準値0%	3,947	3,481	○
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.58	10,183		10,183	8,981	
原単位（ℓ/㎥）*1		1.01		1.01	0.95	
ガソリン使用量（ℓ）		445	基準値0%	445	411	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.32	1,032		1,032	954	
原単位（km/ℓ）		12.42	基準値+1%	12.42	12.20	
A重油使用量（ℓ）		40,949	基準値-1%	40,540	41,105	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.71	110,972		109,862	111,395	
原単位（ℓ/㎥）*2		23.95		23.71	25.85	
産業廃棄物削減項目						
一般廃棄物（ｔ）		0		0	0	-
産業廃棄物（kg）		3,203	基準値-1%	3,171	2,880	○
原単位（ｋｇ/㎥）*2		1.89		1.87	1.82	
木材（kg）		95,730	基準値-1%	94,773	100,030	×
原単位（ｋｇ/㎥）*2		56.54		55.97	63.27	
排水量の削減						
地下水（㎥）		336	基準値-1%	332	356	×
原単位（㎥/㎥）*2		0.20		0.20	0.22	
上水（㎥）		177	基準値-1%	175	168	○
原単位（㎥/人）		0.78		0.77	0.64	
化学物質の削減	【行動目標】インク使用時、適正使用量の管理実施					○

*1　分母「㎥」：木製パレット生産量　*2　分母「㎥」：木材乾燥量

二酸化炭素削減原単位グラフ　（2023年度）

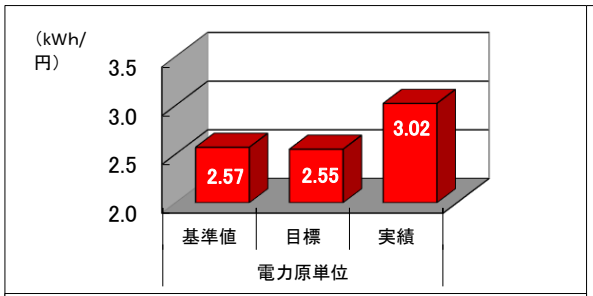


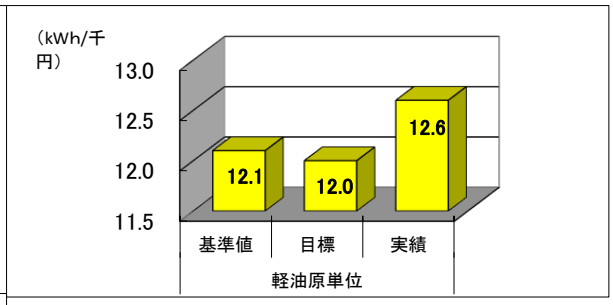
4-3.　環境目標と実績　加工品課

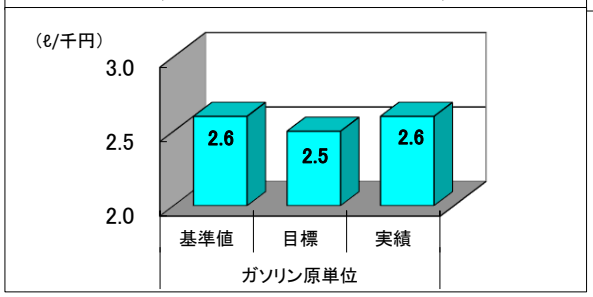
項目	2022年度		2023年度			
	基準年		目標		実績	評　価
二酸化炭素削減項目	（2022年4月～2023年3月）		（2023年4月～2024年3月）		（2023年4月～2024年3月）	（原単位）
電気使用量（kWh）		83,240	基準値-1%	82,408	87,188	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数0.462	38,457		38,072	40,281	
原単位（kWh/円）		2.57		2.54	3.02	
軽油使用量（ℓ）		3,915	基準値-1%	3,876	3,626	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.58	10,101		10,000	9,355	
原単位（ℓ/千円）		12.1		12.0	12.6	
ガソリン使用量（ℓ）		830	基準値-1%	822	742	×
二酸化炭素（kg-ＣＯ2）	排出係数2.32	1,926		1,906	1,721	
原単位（ℓ/百万円）		2.6		2.5	2.6	
産業廃棄物削減項目						
一般廃棄物（ｋｇ）		0		0	0	-
産業廃棄物（ｋｇ）		1,720	基準値-1%	1,703	1,200	○
原単位（ｋｇ/千円）		0.53		0.52	0.42	
①鉄屑（kg）		1,712	基準値0%	1,712	1,949	○
原単位（kg/千円）		0.07		0.07	0.07	
②ステンレス屑（kg）		4,580	基準値0%	4,580	1,920	○
原単位（ｋｇ/千円）		0.05		0.05	0.05	
③D鉄屑（kg）		17,090	基準値0%	17,090	18,608	○
原単位（ｋｇ/千円）		0.17		0.17	0.15	
排水量の削減*1	*1：2019年度より総務課に加工品課を含める。					
化学物質の削減*2	【行動目標】塗料使用時、適正使用量の管理実施					
化学物質使用量（ℓ）		1,148	基準値-1%	1,136	563	○
原単位（ℓ/百万円）		1.127		1.116	0.227	

*2：2023年度より化学物質の削減を活動計画書に追加した。

二酸化炭素削減原単位グラフ　（2023年度）







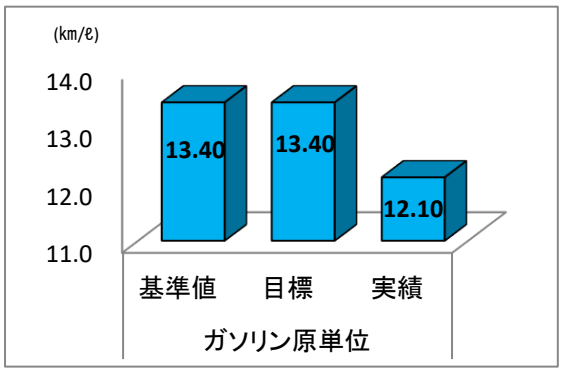
※化学物質の削減については、
　少量であるため行動目標で推進
※グリーン購入・調達は、事務用品で実施

4-4.　環境目標と実績　総務課

項目	2022年度	2023年度		
	基準年	目標	実績	評　価
二酸化炭素削減項目	（2022年4月～2023年3月）	（2023年4月～2024年3月）	（2023年4月～2024年3月）	（原単位）
電気使用量（kWh）*1	*1：総務課の電気使用量は加工品課に含める			
ガソリン使用量（ℓ）	218	基準値-1%　216	241	×
二酸化炭素（kg-CO2）	排出係数2.32　506	501	559	
原単位（km/ℓ）	13.4	13.4	12.1	
産業廃棄物削減項目				
一般廃棄物（kg）	0	0	0	-
産業廃棄物（kg）	600	基準値-1%　594	340	○
排水量の削減				
節水（㎥）*2	573	基準値-1%　567	457	○
原単位（㎥/人）	2.09	2.07	1.27	
化学物質の削減	対象なし			-

*2：総務課に加工品課の排水量を含める。

二酸化炭素削減原単位グラフ　（2023年度）



※グリーン購入・調達は、事務用品で実施

5.　主要な環境活動計画内容

項　目	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課・総務課
二酸化炭素排出量の削減	**電力の削減** ・空調温度の適正化 ・不要設備の電源ＯＦＦ ・小まめな照明ＯＦＦ	**電力の削減** ・天日干しによる乾燥炉使用時間の短縮 ・空調温度の適正化 ・設備、冷暖房不使用時の電源OFF ・エリア別不要証明の電源OFF	**電力の削減** ・空調温度の適正化 ・不使用機械の電源ＯＦＦ ・小まめな工場天井灯のＯＦＦ ・夜間、休日の主電源OFF
	自動車燃料の削減 ・効率的なルートで配送 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・タイヤ空気圧定期チェック	**自動車燃料の削減** ・使用フォークの適切な選択 ・アイドリングストップ活動 ・急加速・急停車の防止 ・トラックの適正なエアコン使用 ・7980番の優先使用	**自動車燃料の削減** ・タイヤ空気圧チェック ・エコドライブの勧め10か条 ・車種別燃料管理
		乾燥炉燃料の削減 ・木材入炉前の天日干し徹底（1ヶ月以上） ・効果的な使用方法（風量・装入量・時間）	
廃棄物排出量の削減	**廃プラ廃棄物の削減** ・素材別ボックスの設置 ・個人ゴミの持ち帰り	**廃プラ廃棄物の削減** ・資源の業者引取りの実施 ・支給品端材等の分別・引取りの徹底 ・定期的な排出、内訳の確認 ・粉屑の雨漏れ防止	**廃プラ廃棄物の削減** ・分別廃棄 ・コピー用紙裏紙使用 ・仕入先返却 ・ウエス再利用
	木材屑の削減 ・端材の有効活用 ・作業ミスによる廃棄量の削減 ・設備トラブルによる廃棄量の削減	**木材屑の削減** ・端材使用の当木在庫製作 ・ねじれ、反り材の挽割転用	**金属屑の削減** ・明細別屑化管理 ・材料毎の分別BOX ・端材の有効利用
排水量の削減	**節水** ・節水の徹底 ・使用しない時の蛇口閉の徹底	**節水** ・地下水　：　乾燥炉の蒸気使用 ブロー量の管理 ・上水　：　節水の励行 洗濯機使用回数の削減	**節水** ・洗濯機利用の低減 ・不要水の削減 ・「節水」ポスター掲示による意識向上
化学物質の削減	【行動目標】 ・鋸用オイルの適正使用料の実施	【行動目標】 ・インクの在庫管理実施（少量の為）	【行動目標】 ・最新版SDS入手 ・化学物質の把握
グリーン購入・その他	・５Ｓ活動の推進 ・事務用品エコマーク商品の優先購入	・５Ｓ活動の推進 ・森林認証制度認証FSCマーク付与の材料を使用	・５Ｓ活動の推進 ・QC活動による歩留UP ・事務用品エコマーク商品の優先購入

6.　環境活動の取組結果と評価

1）本社・門司事業所

（1）二酸化炭素排出量の削減

【電力の削減】

生産量が基準年より増加したが、使用量及び原単位共にの目標達成した。
生産性が良くなってきた効果が出ている。

【車輌燃料の削減】

増産したが燃料の使用量は基準年と同水準であり効率的な配送の効果が出たと考える。
明細により配送回数が増加するため、納品方法の工夫が課題である。

（2）廃棄物排出量の削減

【廃プラスチック削減】

排出量及び原単位ともに未達となった。夏場に排出量が増加した要因はあるが、
暑熱対策として有効のため、個人ゴミの持ち帰り等は継続し躾面の意識向上を進めていく。
また、分類別に管理し更に改善できるものは無いか工夫していく。

【木材屑削減】

排出量は基準年より10%削減できた。生産量が増加し屑化が減少したことは良好な状態
である。製函部全員の木屑削減意識が更に高まったと感じる。今後も端材の有効利用で
廃棄基準を決めて端材の回転を速くする活動に挑戦していく。

（3）５S活動の推進

2）真岡事業所　製函課

（1）二酸化炭素排出量の削減

【電力使用量削減】

基準年に対し社内生産量が年間で7%減となったが、木材捻じれ対策として乾燥条件を変更した事もあり電力使用量は4%減、原単位目標が未達成となった。今後は購入木材の変更予定も有るので指標見直しを含めて検討していく。又、不要照明や不使用設備の電源OFFも継続して活動し目標達成を目指していく。

【自動車燃料削減】

トラック燃料は積み合わせで効率良く納品を行う事で目標を達成出来ている。フォークリフトついても年間通して安定して改善出来ており年間目標も達成。

社有車のガソリンについては燃費の維持が難しく2%の未達となった。

【A重油使用量削減】

電力同様、木材の捻じれ抑制の為、温度や蒸気など乾燥炉の乾燥条件を変更した事でA重油使用量が増加し原単位目標を未達。適正な条件を把握し標準化に繋げていく。

（2）廃棄物排出量の削減

【廃プラスチック削減】

段ボールや紙類をしっかりと分別し有価リサイクルを実施。排出量を年間通じて削減する事か出来ている。今後も分別を徹底し継続していく。

【木材屑削減】

部材の取り合わせや端材の当木利用で排出量を抑えてはいるが、長期停滞品の挽割り転用を多く行った事もあり歩留りが悪化、目標未達となっている。

（3）５S活動の推進　　エリア活動：1件/年、その他改善事項：13件/年

3）真岡事業所　加工品課

（1）二酸化炭素排出量の削減

【電力の削減】

電力の削減では生産量基準年比10%減、タレパン設備導入、溶接機1台導入の影響もあり原単位は未達であった。今後は指標見直しも含め検討していく。

また、こまめな電源OFFも継続して目標達成を目指す。

【燃料の削減】

燃料削減では、ガソリン・軽油ともに原単位で未達となったが、タレパン導入により外注引き取り等が減ったことで、走行距離が8%削減でき、またco2削減に貢献できた。

（2）廃棄物排出量の削減

【廃プラスチックの削減】

廃プラスチック削減では原単位で達成できている。

分別もしっかりと実施し良い状態を継続できている。

【金属屑の削減】

金属屑の削減では品目別ごとに原単位は達成できている。

今後も歩留まりの向上も含め確りと管理していく。

（３）５S活動の推進

活動エリア　北工場製品置場

活動前

活動後　**出荷日ごとに管理**

新設備導入にあたり置き場を変更しラックにて管理。
パレットの移動が削減され荷済み作業時間の削減につながった。

7.　環境関連法規等の遵守及び訴訟の有無

（1）【本社・門司事業所】環境関連法規及び遵守チェック表まとめ

環境関連法	適用内容・規制基準値	遵守評価	
騒音規制法	工業地域（第４種区域） 朝夕　70ｄｂ以下　6:00～23:00 夜朝　65ｄｂ以下　23:00～6:00	騒音規制法第3条第1項 騒音規制法第4条第1項 北九州告示第303号 **基準値以下のためＯＫ**	○
振動規制法	工業地域（第２種区域） 昼間　65ｄｂ以下　8:00～19:00 夜間　60ｄｂ以下　19:00～8:00	騒音規制法第3条第1項 騒音規制法第4条第1項 北九州告示第307号 **※該当設備なし**	○
廃棄物処理法	産廃収集運搬・処理業者との契約書及び許可証写し保管 ・規制対象地域内にある全ての工場・事業場 保管基準　60ｃｍ×60ｃｍ以上表示、 飛散・浸透防止、衛星管理 マニフェスト交付 B2、D,E票の保管（5年間）、B2・D票90日、 Ｅ票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 （６月末迄に） 一般廃棄物（紙くずなど） 産業廃棄物（木くず）	法律に遵守 マニフェストの保管確認ＯＫ	○
消防法	防火対象物とされる施設・建屋の消防設備の点検 「消防用設備等点検結果報告」 機器点検　6ヶ月に1回 総合点検　1年に1回	消防法第17条の３の3 法律に遵守	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品 室外機　3台 スポットクーラー　3台	圧縮機の定格出力7.5ｋｗ以下 簡易点検　１回/３ヶ月実施 問題なし	○

（2）環境関連法規への違反、訴訟の有無

調査対象期間、2023年4月より2024年3月までに於いて、関連法規への違反、訴訟等はありませんでした。また、関連機関から改善に関する指摘等も過去3年間ありません。

（3）【真岡事業所】環境関連法規及び遵守チェック表まとめ

環境関連法	適用内容・規制基準値	遵守評価	
騒音規制法 製函 加工品	工業専用地域 昼間　75ｄｂ以下　8:00～18:00 朝夕　70ｄｂ以下　朝6:00～8:00 夕18:00～22:00 夜間　60ｄｂ以下　22:00～6:00	規制基準の遵守義務 （施行規則第６条別表第３⑷） 基準値以下のためＯＫ **※測定義務は無し**	○
振動規制法 製函 加工品	工業専用地域 昼間　70ｄｂ以下　8:00～20:00 夜間　65ｄｂ以下　20:00～8:00 ※加工品　液圧プレス、コンプレッサー	特定工場等の規制基準 （規則別表第３⑸） **※測定義務は無し**	○
悪臭防止法 製函 加工品	真岡市 工業専用地域　敷地境界線の臭気指数18 ・規制対象地域内にある全ての工場・事業場	外部ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝによる 苦情等無し	○
廃棄物処理法 製函 加工品	産廃収集運搬・処理業者との契約書及び 許可証写し保管 保管基準　60ｃｍ×60ｃｍ以上表示、 飛散・浸透防止、衛星管理 マニフェスト交付 B2、D,E票の保管（5年間）、B2・Ｄ票90日、 Ｅ票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 （６月末迄に） 一般廃棄物（紙くずなど） 産業廃棄物（廃プラ類、木くずなど）	法律に遵守 マニフェストの保管確認ＯＫ	○
大気汚染防止法 製函	ばい煙発生施設　木材乾燥機 伝熱面積10㎡以上　No.1　4.6㎡　三浦工業 火格子面積1㎡以上　No.2　6.9㎡　長府製作所 燃焼量50ℓ/H以上　No.3　7.6㎡　三浦工業	10㎡以下のため問題なし	○
消防法　製函	少量危険物貯蔵取扱所　A重油タンク 危険物第3類第4石油類　重油（指定数量2,000ℓ）	取扱いの技術上の基準等（第31条の２） 法律に遵守	○
フロン排出抑制法 製函 加工品	第一種特定製品 室外機　2台 室外機　5台、スポットクーラー　3台	圧縮機の定格出力7.5ｋｗ以下 簡易点検　１回/３ヶ月実施 問題なし	○
特定化学物質障害予防規則 (特化則第38条の21第2項～第8項)	溶接ヒュームの測定、その結果に基づく呼吸用保護具の使用及びフィットテストの実施等 加工品南工場溶接作業は規制マスクの着用遵守	保護具選定 フィットテスト	○ ○

（4）環境関連法規への違反、訴訟の有無

調査対象期間、2023年4月より2024年3月までに於いて、関連法規への違反、訴訟等はありませんでした。また、関連機関から改善に関する指摘等も過去3年間ありません。

8-1.　次年度の活動目標

〔本社・門司事業所〕　　評価（原単位評価）　：　○達成　×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 （2023年4月～2024年3月）		2024年度 （2024年4月～2025年3月）		2025年度 （2025年4月～2026年3月）	
二酸化炭素削減項目		目　標	実績評価	目　標	実績評価	目　標	実績評価
電気使用量（kWh）	35,840	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	16,594	排出係数0.463		排出係数0.463		排出係数0.463	
原単位（kWh/㎥）	118.28	117.10		115.91		114.73	
軽油使用量（ℓ）	1,060	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	2,735	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位（ℓ/㎥）	3.50	3.47		3.43		3.40	
ガソリン使用量（ℓ）	191	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	443	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（ℓ/㎥）	0.63	0.62		0.62		0.61	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物（kg）	15	基準値-1%	×	基準値-1%		基準値-2%	
原単位（Kg/㎥）	0.050	0.05		0.05		0.05	
木材（kg）	32,250	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（kg/㎥）	106.44	105.38		104.31		103.25	
排水量の削減							
節水（㎥）	140	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（㎥/㎥）	0.46	0.46		0.45		0.45	
化学物質の削減							
行動目標	鋸用オイルの適正使用量の実施						

本社・門司事業所次年度活動目標

・一般ごみの分類別廃棄量を把握し、改善を進めていく。
・木材屑削減では端材の有効利用は定着しているため、廃棄基準を明確にして
　端材利用の回転を速くする活動を進めていく。

【基準値変更】

項目	変更点
基準年	該当なし

8-2.　次年度の活動目標

〔真岡事業所　製函課〕　　評価（原単位評価）　：　○達成　×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度（2023年4月～2024年3月）		2024年度（2024年4月～2025年3月）		2025年度（2025年4月～2026年3月）	
二酸化炭素削減項目		目　標	実績評価	目　標	実績評価	目　標	実績評価
電気使用量（kWh）	112,495	基準値-1%	×	基準値-1%		基準値-2%	
二酸化炭素（kg-CO2）	51,973	排出係数0.463		排出係数0.463		排出係数0.463	
原単位（kWh/㎥）	66.45	65.79		65.79		65.12	
トラック軽油使用量(ℓ)	1,165	基準値0%	×	基準値-1%		基準値-2%	
二酸化炭素（kg-CO2）	3,006	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位（ℓ/㎥）	0.30	0.30		0.30		0.29	
フォーク軽油使用量(ℓ)	3,947	基準値0%	×	基準値-1%		基準値-2%	
二酸化炭素（kg-CO2）	10,183	排出係数2.58		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（ℓ/㎥）	1.01	1.01		1.00		0.99	
ガソリン使用量（ℓ）	445	基準値0%	×	基準値0%		基準値0%	
二酸化炭素（kg-CO2）	1,032	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（km/ℓ）	12.42	12.42		12.42		12.42	
A重油使用量（ℓ）	40,949	基準値-1%	×	基準値-1%		基準値-2%	
二酸化炭素（kg-CO2）	110,972	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（ℓ/㎥）	23.71	23.47		23.47		23.24	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物（kg）	0	-		-		-	
産業廃棄物（kg）	3,203	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（kg/㎥）	1.89	1.87		1.85		1.83	
木材（kg）	95,730	基準値-1%	×	基準値-1%		基準値-2%	
原単位（kg/㎥）	56.54	55.97		55.97		55.41	
排水量の削減							
地下水（㎥）	336	基準値-1%	×	基準値-1%		基準値-2%	
原単位（㎥/㎥）	0.20	0.20		0.20		0.20	
上水（㎥）	225	基準値-1%	○	基準値-1%		基準値-2%	
原単位（㎥/人）	0.78	0.77		0.77		0.76	
化学物質の削減							
行動目標	インク使用時、適正使用量の管理実施						

製函課次年度活動目標

トラック原単位を燃費から総生産量に変更して活動する。

項目	変更点
基準年	該当なし
軽油使用量	トラック原単位の分母を総生産量（㎥）に変更（ℓ/㎥）

8-3. 次年度の活動目標

〔真岡事業所　加工品課〕 評価（原単位評価）　：　○達成　×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度（2023年4月～2024年3月）		2024年度（2024年4月～2025年3月）		2025年度（2025年4月～2026年3月）	
二酸化炭素削減項目		目　標	実績評価	目　標	実績評価	目　標	実績評価
電気使用量（kWh）	83,240	基準値-1%	×	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	38,457	排出係数0.463		排出係数0.463		排出係数0.463	
原単位（kWh/円）	2.57	2.54		2.52		2.49	
軽油使用量（ℓ）	3,915	基準値-1%	×	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	10,101	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位（ℓ/百万円）	12.10	12.0		11.86		11.74	
ガソリン使用量（ℓ）	2,478	基準値-1%	×	基準値-2%		基準値-3%	
二酸化炭素（kg-CO2）	5,749	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（ℓ/百万円）	2.60	2.57		2.55		2.52	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物（kg）	0	-	-	-	-	-	-
産業廃棄物（kg）	2,410	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（ｋｇ/万円）	0.530	0.52		0.52		0.51	
鉄屑（kg）	1,712	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（ｋｇ/万円）	0.07	0.07		0.07		0.07	
ステンレス屑（kg）	4,580	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（ｋｇ/万円）	0.05	0.05		0.05		0.05	
D鉄屑（kg）	15,545	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（ｋｇ/万円）	0.15	0.15		0.15		0.15	
化学物質の削減							
化学物質含有量（ℓ）	0.365	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（ℓ/百万円）	1.127	1.116		1.100		1.090	

加工品課次年度活動目標

2024年度より原単位分母を売上から製作製品台数に変更して活動する。

項目	変更点
基準年	該当なし
電力	原単位分母を売上から製作台数に変（kWｈ/台）
軽油	原単位分母を売上から製作台数に変（ℓ/台）
ガソリン	原単位分母を売上から製作台数に変（ℓ/台）
産プラ	原単位分母を売上から製作台数に変（kg/台）

8-4. 次年度の活動目標

〔真岡事業所　総務課〕　評価（原単位評価）　：　○達成　×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 （2023年4月～2024年3月）		2024年度 （2024年4月～2025年3月）		2025年度 （2025年4月～2026年3月）	
二酸化炭素削減項目		目　標	実績評価	目　標	実績評価	目　標	実績評価
ガソリン使用量（ℓ）	218	基準値100%	×	基準値100%		基準値100%	
二酸化炭素（kg-CO2）	506	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（ℓ/百万円）	13.40	13.40		13.40		13.40	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物（kg）	0	-	-	-	-	-	-
産業廃棄物（kg）	600	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
排水量の削減							
節水（㎥）	573	基準値-1%	○	基準値-2%		基準値-3%	
原単位（㎥/人）	2.09	2.07		2.05		2.03	

総務課次年度活動目標

項目	変更点
基準年	該当なし

9. 次年度の主要な環境活動計画内容

項　目	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課・総務課
二酸化炭素排出量の削減	**電力の削減** ・空調温度の適正化 ・不要設備の電源ＯＦＦ ・小まめな照明ＯＦＦ	**電力の削減** ・天日干しによる乾燥炉使用時間の短縮 ・空調温度の適正化 ・設備、冷暖房不使用時の電源OFF ・エリア別不要照明の電源OFF	**電力の削減** ・空調温度の適正化 ・不使用機械の電源ＯＦＦ ・小まめな工場天井灯のＯＦＦ ・夜間、休日の主電源OFF
	自動車燃料の削減 ・効率的なルートで配送 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・タイヤ空気圧定期チェック	**自動車燃料の削減** ・使用フォークの適切な選択 ・アイドリングストップ活動 ・急加速・急停車の防止 ・トラックの適正なエアコン使用	**自動車燃料の削減** ・タイヤ空気圧チェック ・エコドライブの勧め10か条 ・車種別燃費管理
		乾燥炉燃料の削減 ・木材入炉前の天日干し徹底（1ヶ月以上） ・効果的な使用方法（風量・装入量・時間）	
廃棄物排出量の削減	**廃プラ廃棄物の削減** ・素材別ボックスの設置 ・個人ゴミの持ち帰り	**廃プラ廃棄物の削減** ・資源の業者引取りの実施 ・支給品端材等の分別・引取りの徹底 ・定期的な排出 ・廃棄物の雨漏れ防止	**廃プラ廃棄物の削減** ・分別廃棄 ・コピー用紙裏紙使用 ・仕入先返却 ・ウエス再利用
	木材屑の削減 ・端材の有効活用 ・作業ミスによる廃棄量の削減 ・設備トラブルによる廃棄量の削減	**木材屑の削減** ・端材使用の当木在庫製作 ・ねじれ、反り材の挽き割り転用	**金属屑の削減** ・材料毎の分別BOX ・端材の有効活用 ・明細別の屑化管理
排水量の削減	**節水** ・節水の徹底 ・使用しない時の蛇口閉の徹底	**節水** ・地下水：　乾燥炉の蒸気使用、ブロー量の管理 ・上水：　節水の励行、洗濯機使用回数の削減	**節水** ・洗濯機利用の低減 ・不要水の削減 ・「節水」ポスター掲示による意識向上
化学物質の削減	【行動目標】 ・鋸用オイルの適正使用料の実施	【行動目標】 ・インクの在庫管理実施（少量の為）	【行動目標】 ・塗料使用時、適正使用量の管理実施
その他	・事務用品購入時、エコマーク商品の優先購入を推進	・５Ｓ活動の推進 ・森林認証制度認証FSCマーク付与の材料を使用	・５Ｓ活動の推進 ・QC活動による歩留UP ・事務用品購入時、エコマーク商品の優先購入を推進

10.　代表者による全体評価と見直しの結果

当社は今年で創業110周年を迎えることができました。

現在、世界的に環境活動の重要性がクローズアップされ地球温暖化防止への取組が加速しています。
これまで、「エコアクション21を推進し環境にやさしい事業所をつくろう！」をコンセプトに環境改善活動
推進して参りました。

このような中、お取引先様では、一部の木パレットを使用後は廃却をしていましたが、
今後、リサイクル利用しCO2削減を図る取組が開始されました。
この活動により当社でも、環境にやさしい木パレット製作の取組に繋がりました。

今年度の取組内容については、電力の削減、化石燃料の削減に未達部門がありました。
生産量が減少した影響が大きくなっています。加工品課では自社制作の強化のためタレパンを新規導入し
大きな変化がありました。次年度は原単位の指標を見直し適正な管理をお願いします。

これからも従業員一人ひとりの環境への意識向上はもとより、生産性向上による資質の省力化・
エネルギーの効率利用を目指しながら、持続可能な社会実現に貢献できるよう引き続き全員参加で
エコアクション21を推進していきましょう。